



せせらぎ

12月

令和7年12月25日

清瀬市立清瀬第四小学校

冬休みは親子で読書を楽しもう！～親子読書のすすめ～

副校長 佐々木 光治

本日、終業式を迎え、2学期が終了しました。特に、運動会や音楽会では、仲間と力を合わせて目標に向かって努力する姿が印象的でした。仲間と共に多くの経験を通して、“協力する力”、“やり抜く力”を身に付けてきました。

さて、冬休みは家族と過ごす時間が増える貴重な期間です。そこでおすすめしたいのが「親子読書」です。清四小では、「ホンとのチカラ清四小」というキャッチコピーで、読書活動や漢字チャレンジ活動に力を入れてきました。読書を通して、読解力や思考力、想像力、集中力などを育み、日常生活での判断力や表現力の土台を養っています。一方で、学校ではよく本を読む子も、家庭では読書の時間が取りにくい実態があるようです。ぜひ冬休みに親子で楽しく読書に取り組んでみてはいかがでしょうか。ここで、「親子読書」の楽しみ方をいくつか紹介します。

・同じ時間にそれぞれ好きな本を読む

親子で同じ時間にそれぞれ好きな本を読むと、自分が読みたい本を読みながらもお子様との時間を同時に過ごすことができます。朝の15分や寝る前の20分など、時間を決めて読むと習慣になり、毎日続けやすくなります。

・親子で同じ本を読み、感想を伝え合う

親子で同じ本を読み、「この場面はどう思った？」や「もし自分が主人公ならどうする？」と話し合うのも楽しいものです。物語を深く理解するとともに、自分の考えを言葉で表現する力も育ちます。

・親が子にまたは子が親に読み聞かせをする

読み聞かせをして声に出すことで、文章のリズムや言葉の響きを楽しむことができます。自然に表現力も高まります。また、読めなかった漢字や知らなかった言葉を親子で一緒に確認しながら読むと、語彙も増えていきます。

・親子で本を使った遊びや活動をする

読んだ本について、登場人物の人柄や行動などからクイズを作って親子で問題を出し合ったり、好きな場面やせりふを覚えて朗読コンテストをしたりすると、ゲーム感覚で楽しみながら読解力を深めることができます。

・読書ノートや感想カードを作成して記録を残す

読んだ本のタイトルや「面白かった場面」「学んだこと」「質問したいこと」などを読書ノートや感想カードに書き、親子で紹介し合うことで、記録が残るだけでなく、考える力や表現力も育ちます。

・本をきっかけに親子でお出かけをしたり体験活動を行う

本に出てくる場所や植物、動物を実際に見に行ったり、読書で得た知識を生活の中で体験したりすると、学んだことがより記憶に残りやすくなります。

「親子読書のすすめ」として、上記の例が参考になれば幸いです。新しい世界や考え方に出あってほしいと思います。

また、本校では語彙力を高め、言葉を使いこなす力を育てるために「清四漢検」も実施しています。漢字を正しく読んだり書いたりする力は全ての教科学習の基本中の基本です。卒業までに小学校で学ぶ「漢字 1026 字」の習得をめざしています。語彙があれば、言葉の理解力も高まり表現する力が高まります。漢字力は読書でも養われます。

これからも児童一人一人が豊かな心と確かな言語力を育むため、読書活動や漢字学習を大切にしたいと思います。いよいよ明日から冬休み。ぜひ親子で本を開き、楽しみながら本の世界に親しんでください。読書を通して、心温まるひとときが生まれることを願っています。



読書タイムの風景



外部の方の読み聞かせ



5年生による伝記を紹介する掲示物

♪『みんなの音楽会』を終えて♪

12月5日に児童鑑賞日、6日に保護者鑑賞日と、2日間にわたり「みんなの音楽会」を開催しました。当日は多くの保護者や地域の皆様にご来校いただき、子どもたちの晴れの姿をご覧いただきました。“朝練”から“家練”まで、「できるようになりたい!」との思いで、練習に取り組んできた子供たちでした。どの学年もその成果を発揮し、達成感、満足感いっぱいの心温まる大感動の音楽会となりました。



保護者アンケートで、その成長ぶりを喜ぶすてきな感想を数多くいただきました。その一部をご紹介しますとともに、ご質問やご意見についても学校の見解をお伝えいたします。

【ご感想】

- 合奏と歌だけだと思っていたので、セリフがあったり、劇みたいだったり、見ていてとても楽しかった。
- みんなが良い合唱、合奏にしたい!という気持ちが伝わってきました。上級生の発表を観て、さらに次はもっと頑張りたいと感じたと思います。
- マットの位置がとても見やすく配慮されていた。また学年ごとに席を交換制にしてくださったのは見やすかった。
- 全学年拝聴しましたが、みなさんとても素晴らしかったです。気持ちのこもった合唱や合奏に感動する場面がたくさんありました。詩やお手紙や思いを話す演出なども素敵でした。それぞれの学年のカラーがあり、それが伝わってきて個性豊かで見応えがありました。
- 各学年素晴らしく、特に高学年は中学の合唱コンクール見ているみたいでレベルが高かったと感じました。
- 素晴らしい音楽会でした。何より子供たちが楽しそうだったのが嬉しかった。



○低学年は可愛らしさがあり、高学年になるにつれて迫力もあり、とても見応えがありました。ミュージカル風な要素も良かったです。

○音楽会というより音楽祭という感じで見応えがあり楽しかった。

○子供たちの歌も楽器の演奏も感動して涙が出てしまいました。熱心に練習を積み重ねてきたことも知っていたので、心を動かされました。子供たちの成長を感じられてとても嬉しく思います。

【ご質問・ご意見】

- 体育館が寒かった。暖房を入れていただけたらもっと多くの保護者に長く参観してもらえるのでは。
⇒空調の音が大きく、児童の演奏の妨げとなってしまうため、当日は暖房を停止する対応を取りました。開演前には会場を十分に温めておきましたが、時間の経過とともに室温が下がり、来場された皆様にはご不便をおかけしました。「音を楽しむ」という性質上、どうしても暖房の音は、雑音となってしまいます。その点をご理解いただき、次回も音楽会鑑賞の際には、暖かい服装、使い捨てカイロ等で防寒対策の上、ご来場くださいますようお願いいたします。
- 観客席に関して、マットもパイプ椅子も間隔が狭いせいか見づらく感じました。
⇒座席の間隔を広げすぎると、児童から保護者席が遠くなり、特に後方の席では見えにくくなると判断しました。そのため、適度なスペースを確保しつつ、できるだけ多くの方に見やすい配置といたしました。次回は、学校運営協議会（コミュニティスクール委員）の方々にも相談して、よりよい準備ができたらと考えます。
- 服の色を合わせるのであれば全学年でしませんか。
⇒服装の統一をすることは、今回新たな試みであったことと、各学年児童の主体的な提案により生まれたものでした。今後もその時の学年や学級の実態に応じて当日の服装をどのようにするのかは判断してまいります。
- 横で立って撮影している人が、三脚ゾーンに誘導される人とされない人がいて、ルールが徹底されていなくて気になりました。
⇒学校としては、ずっと監視することは困難ですが、できる限り参観者の「常識・良識」を信じたいと思います。そもそも、「気持ちよく鑑賞するために」というモラル（気配り）にかかっています。お一人お一人のご協力により、今後とも、ルールを守って鑑賞していただけるように入念に協力依頼をしたいと思っております。



令和7年度「清瀬の100冊読書感想文コンクール」

おめでとうございます！

【教育長賞】

やさしさとゆう気

2年1組 ささき みずほ

「たつの子太郎が、わたしのクラスに来てくれたらいいのに。」と読みおえたときに、心がいっぱいになりました。まさか、読みおえたとき、そんな気持ちになるとは思わなかったので、自分でもびっくりです。もし、たつの子太郎に会えたら、友だちになって、ぼうけんの話をくわしく聞いたり、つぎのぼうけんにいっしょにつれて行ってもらったりしたいです。考えただけでもわくわくします。

りゅうになったお母さんに会うために、ぼうけんに出かけるたつの子太郎。と中でつらいこともあったけれど、のりこえて、あきらめない心にかんどうしました。

わたしもピアノのはっぴょう会におけて毎日がんばっています。うまくいかず、おちこむこともあるけれど、自分ならできるとしんじてがんばっています。たつの子太郎のすがたから、しんじる心が力になることをかんじました。

たつの子太郎は、しんじるつよさ、あきらめない心だけではありません。やさしさやゆう気もあります。わたしが、一ばん心にとこったのは、たつの子太郎の心のきれいさです。

村でくらすみんなのために、広いはたけをつくろうと大へんな思いで山をこわしました。いつも自分のことよりみんなのためにいっしょけんめいなたつの子太郎。この話を読んで、前にわたしのお母さんがしてくれた話を思い出しました。

それは、わたしがまだお母さんのおなかにいるときのできごとです。でん車の中にお母さんを見て、女の子がせきをゆずってくれました。遠くにいたのに声をかけにきて、たすけてくれたそうです。女の子もたつの子太郎もやさしくてゆう気があります。わたしもその二人みたいにやさしさやゆう気を持ち、家ぞくや友だちがこまっているときにたすけてあげたい。わたしもいつかそんな人になりたいです。



〈講評〉

人間にとって、強く心に残ったことは、しっかりと濾過されて、その人の感性を豊かにし、大切な経験＝“心の宝物”になっていきます。みずほさんの「たつの子太郎」への優しい眼差し。それは、「友だちになりたいな」、「お話したいな」、そして「わくわくする」という言葉になって現れています。ふだんから「良書」に親しんでいるからこそ伝わってくるものでした。今回は、本の中で「たつの子太郎」と出会う、改めて気づいた「優しさ」と「勇気」の大切さ。そこに気付くというのは、みずほさん自身が、今までの生活の中で、それを実感するような話や体験があった証拠でした。今回のそれは、以前、お母さんが話してくれた体験を“素直な心”で聞いていたのです。そのインプットがとても貴重でした。一人の人が実際に直接体験できることは限られています。しかし間接体験として「良い話」や「素敵な本」との出あいは、人生の栄養となり、「幸せの元」になります。それを見事に表現してくれた読書感想文でした。私はいつも思うのです。みずほさんと同じように、清四っ子たちには、その「優しさ」と「勇気」に富んでいる子供がたくさんいるな、と。素敵な子供たちです。今回も人を信じること、あきらめない心について、自然と振り返らせてくれる文章に感銘を受けました。(校長談)



【最優秀賞】

ぼくが正義について語るなら

6年1組 貴田 翔太

今、朝ドラの「あんぱん」で注目を浴びている「アンパンマン」の作者のやなせたかしさん。そのやなせさんが正義について語るというのにひかれ、「わたしが正義について語るなら」の本に決めました。

ぼくがこの本で一番心に残ったのは、「傷つく覚悟がないと正義は行えない」というと

ころです。正義とは、スーパーマンやヒーロー、仮面ライダーが印象的でした。でもこのヒーロー達は強く、本当に強いだけが正義なのか、敵を殺してしまうことが正義なのかということをぼくはずっと考えていました。

この本を読むとやっぱり正義には、やさしさと勇気が大切だと思いました。そして間違っても殺してはいけないのだと考え直しました。

やなせさんの正義をぼくは尊敬します。なぜなら自分にあった正義「カッコいい」を「人々の喜び」に変えてくれたからです。

ぼくはこの哲学に何か聞き覚えがありました。それは最近見た映画の救出ドラマでした。

火災の中から人を救出する時に、主人公は酸欠でたおれそうになりました。そしてたおれている人から

「自分も守れないのはダサいよ。」

と言われてしまいます。でも隊員は、

「おれの正義は喜びだあ。」

と言います。このシーンはやなせさんの考えと似ているなと思いました。ぼくはこのシーンに一番感動しました。なぜなら強いわけでもない人間が自分を犠牲にする「勇気」人々を思う「やさしさ」の二つが合わさり、人々を感動させたと思うからです。ただヒーローが敵をたおしても、カッコいいとしか思いません。ぼくは、このことから正義とは「やさしさ」と「勇気」が合わさって、人々を喜ばすということにつながると思うのです。

ぼくには「やさしさ」はありますが、「勇気」はありません。もしあの場面で自分が隊員だとしたら助けてあげたいと思うけれど、自分を犠牲にするということにちゅうちょして逃げてしまうと思います。これはやなせたかしさんの物語ではないけれど、同じ考えなのでそれを例にしました。やっぱり正義というのは簡単なものではなく、意識するものでもなく、本望のままに人を思う気持ちが体を動かすのだと思いました。

ぼくはこれから正義についてまた考える時がくるかもしれません。今日紹介した正義はやなせさんのものです。次に考える時には、ぼくの正義ができているかもしれません。

でも絶対に変わらない内容が一つあります。それは「やさしさと勇気」です。自分だけが得する正義はありません。正義は自分を犠牲にする覚悟をもち行います。この考えをみんながもつようになってほしいです。ぼくもやなせさんのように自分の正義をもって生きていきたいです。

〈 講 評 〉

私は、貴田さんの力強い言葉、自分を見つめる言葉、よりよく生きようとする言葉に感銘を受けました。最高学年らしさを感じました。その一つは、「次に考える時には、ぼくの正義ができているかもしれません。」と言いつつ「ぼくもやなせさんと同じように自分の正義をもって生きていきたいです。」との素直な心でその意思が表現されているところです。二つには、「正義」とは何か。どんな行動をすることが「正義」なのか。そういうことを、じっくりと思索しています。三つには、自分が信じる「正義」を果たすには、「優しさと勇気」が必要で、それは、他人も自分も共に幸せになる、その「覚悟」をもった人間になりたい、という思いと願いです。ドラマ「あんぱん」の根底に流れる「何のために生まれ、何のために生きるのか」との哲学的な問いかけにも通じる考え方です。これからのグローバル社会に欠かせない考え方です。これからの日本は、自分と異なった文化の人々と一緒に仕事をしたり、近所付き合い・生活をしたりするからです。互いの価値観の壁を乗り越えて様々な人々と関わり、「人の喜びを自分の喜び」とできる人生は、本当に素敵な生き方だと思います。今、清四小ではその土台づくりをしている最中です。貴田さんとともに清四っ子たちが、これからも伸び伸びと自分らしさに磨きをかけてほしいと願っています。(校長談)

「ホンとのチカラ」とは、本を読み、考え、想像し、人として大事な言葉を頭脳にインプットし、それを必要な時に、取り出すアウトプットする力です。インプットからアウトプットの間には、常に人間がいて、その人と関わり対話する中で言葉が磨かれていきます。その言葉が心の中にしっかりと貯蔵され、その心の中の思いを響かせて声となったときに、外に現われてきます。それがその子らしい「自分の言葉」⇒「ホンとのチカラ」です。

今回の読書感想文は、そのアウトプットの力（ホンとのチカラ）が発揮されています。仕上げるまで、さまざまな人と関わっていたはずですが、その中で磨かれた言葉が、「自分の言葉」となって、声として発したい、それを文章にしたい、との思いで表現されています。今回ちょうど良いタイミングでしたので、紹介させていただきました。